

第5回徳之島ごと さくらねこTNRプロジェクト



さくらねこ無料不妊手術事業

2015年11月5日～9日

申請者：徳之島3町（天城町・伊仙町・徳之島町）

第一回H26/11/15～22	537頭
第二回H27/1/25～31	641頭
第三回H27/4/16～21	251頭
第四回H27/6/14～19	233頭
第五回H27/11/5～9	314頭
合計	1976頭

はじめに

公益財団法人どうぶつ基金では鹿児島県奄美群島の世界自然遺産登録への取り組みとして、行政と協働して、猫の捕食によるアマミノクロウサギ絶滅の保護措置のために徳之島に生息する全ての猫（推定3000頭）に、さくらねこTNR無料不妊手術を行うことになった。徳之島は国の特別天然記念物アマミノクロウサギの生息地である。現在、国立公園に指定されていますが近く国立公園に指定される見込みで、2年後までに世界自然遺産登録を目指している。しかし、その根拠であるアマミノクロウサギは徳之島にわずか200羽といわれており環境省レッドリストの絶滅危惧IB類（絶滅危機）に指定されている。

アマミノクロウサギと猫

環境省がアマミノクロウサギの幼獣の生息状況等をモニタリングするために実施しているセンサーカメラによる自動撮影調査において、ノネコがアマミノクロウサギの幼獣を捕食している場面が撮影された。不妊手術を施さないなどといった不適正な飼養や遺棄により、野生化した犬やねこの一部は繁殖し、野生生物を捕食するようになり、今回のような重大な事態をもたらす結果となってしまった。

徳之島ごとさくらねこTNRを行う理由

3000匹の島の猫すべてに不妊手術を施しさくらねこにすることで、管理された猫と人とアマミノクロウサギが共存する島となり、結果、アマミノクロウサギなどの希少動物を守ることにつながり、徳之島は世界一自然に生き物に優しい島となる。



写真：ノラ猫にくわえられたアマミノクロウサギ（写真提供：環境省奄美自然保護官事務所）

スケジュール

11月5日(木)

13:30	手術会場設営
14:30	手術開始
16:30	手術終了
17:00	撤収完了・終礼

11月6日(金)

8:50	朝礼
9:00	手術開始
12:00	昼食
13:00	手術再開
16:30	手術終了
17:00	撤収完了・終礼

11月7日(土)

8:40	朝礼
9:00	手術開始
12:00	昼食
13:00	手術再開
16:30	手術終了
17:00	撤収完了・終礼

11月8日(日)

8:30	朝礼
8:40	手術開始
12:00	昼食
13:00	手術再開
15:30	手術終了
16:30	撤収完了・終礼

11月9日(月)

9:40	三町課長会議開始
11:00	終了
11:00	感謝状贈呈式
11:30	終了

協働人員数（手術日）

	伊仙町	天城町	徳之島町	どうぶつ基金	合計
11月5日	9	9	6	6	30
11月6日	9	9	6	6	30
11月7日	9	9	6	6	30
11月8日	9	9	6	6	30
延べ人数	36	36	24	24	120

使用捕獲器数

捕獲器所有者	使用台数
どうぶつ基金	212
合計	212



以前の出張手術でさくらねこ
になった猫が元気な姿を見せにきた。

手術会場及び猫保管場

手術会場 : 天城町農業センター

猫の保管 : 天城町農業センター



手術会場内の様子



手術が終わった猫の保護場所

手術集計

TNR数

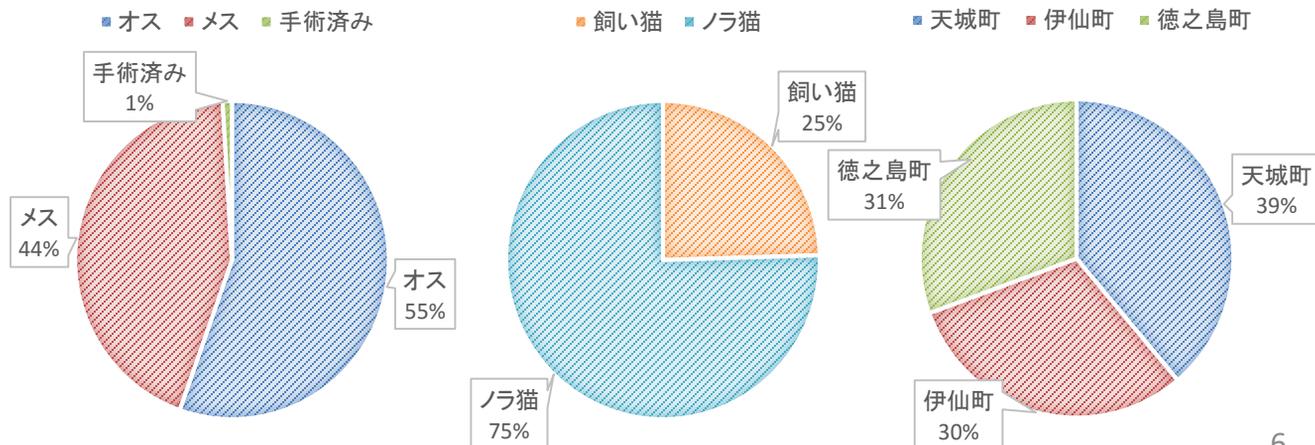
	オス	メス	耳カットのみ	耳カット済み	計
11月5日	8	17	0	0	25
11月6日	48	41	1	0	90
11月7日	61	46	0	1	108
11月8日	57	33	1	0	91
合計	174	137	2	1	314

町別猫持ち込み数

	飼い猫	ノラ猫	計
天城町	7	115	122
伊仙町	43	53	96
徳之島町	27	69	96
計	77	237	314

※持ち込み数のうち、18頭が低体重のため手術見送り

手術オスメス割合 飼い猫ノラ猫割合 町別持ち込み数



その他治療

全頭に実施

ノミ・ダニ・回虫の駆除（レボリューション）、ワクチン、点眼、補液50cc

特別治療

ヘルニア治療	1頭
首怪我洗浄消毒13針縫合	1頭
首怪我洗浄消毒10針縫合	1頭
尾怪我洗浄消毒6針縫合	1頭
トリモチ付着除去	1頭
右腹部21針、左肩内10針、外11針縫合	1頭



右腹部21針、左肩内10針、外11針縫合手術を受けた猫。
手術翌日から餌をよく食べた。

執刀医



山口武雄獣医師長
(どうぶつ基金顧問)



日下部獣医師



大西獣医師

手術会場の様子



朝礼の様子

毎朝 8 時 50 分から手術前に
全員で朝礼を行う。



猫の搬入

各町で捕獲された猫が運びこ
まれてくる。



受付

飼い猫の受付の様子

手術会場の様子



猫に手術用の管理タグをつける
一頭一頭に管理タグをつける。



手術準備

会場に搬入された猫に、
安定剤、麻酔、抗生剤、ワクチン
を注射していく。
行政職員さんと獣医師の息の合っ
た連携で行われる。



耳カット毛刈り・ノミ駆除

手術する前に、毛刈り、
みみ先カット（さくら耳）と
ノミ・ダニ・回虫の駆除
（レボリューション）を実施。

手術会場の様子



不妊去勢手術



ケージの洗浄

猫が手術を受けている間にケージを洗浄して、猫を受け入れる準備を整える。シルバー人材の皆さんがおこなった。



術後ケア

手術が終わった猫には、補液、目薬、耳掃除を実施。

手術会場の様子



安静

手術が終わった猫は洗浄されたケージに戻し、保護場所に運ぶ。一晩安静にし、翌日リターンする。



その他治療

不妊手術以外にも治療が必要な猫にはできる限りの処置をする。写真は、おそらくハブに咬まれ重症を負った猫。傷口の消毒と縫合をおこなった。



KTS取材

鹿児島テレビ放送 (KTS) の取材に応じるどうぶつ基金佐上理事長。

3 町町長からからの感謝状贈呈式

天城町役場にて感謝状贈呈式

どうぶつ基金では、昨年度11月から現在までの約1年間で、1,976頭の徳之島の猫に無料の不妊手術を提供した。その功績と成果に対して天城町、伊仙町、徳之島町から感謝状をいただいた。



天城町大久町長



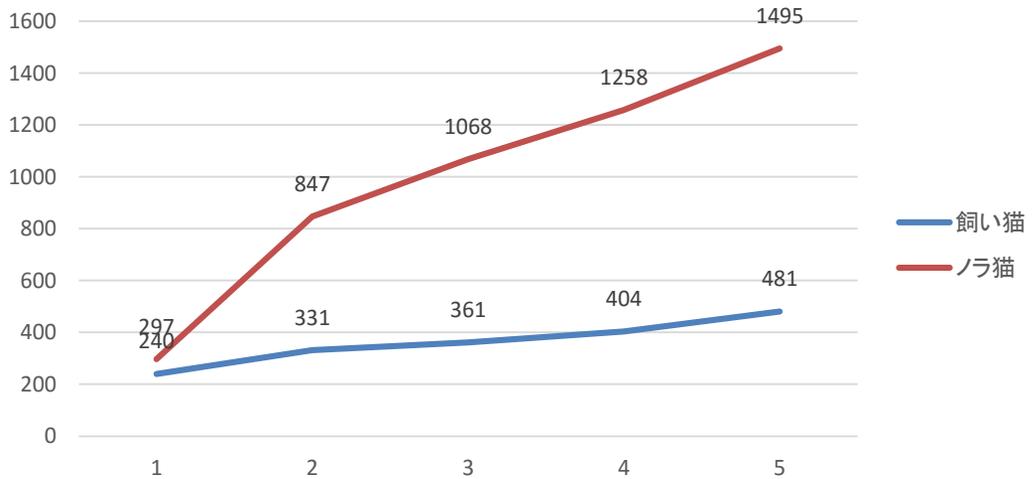
どうぶつ基金佐上理事長

徳之島ごとさくらねこTNR数 累計

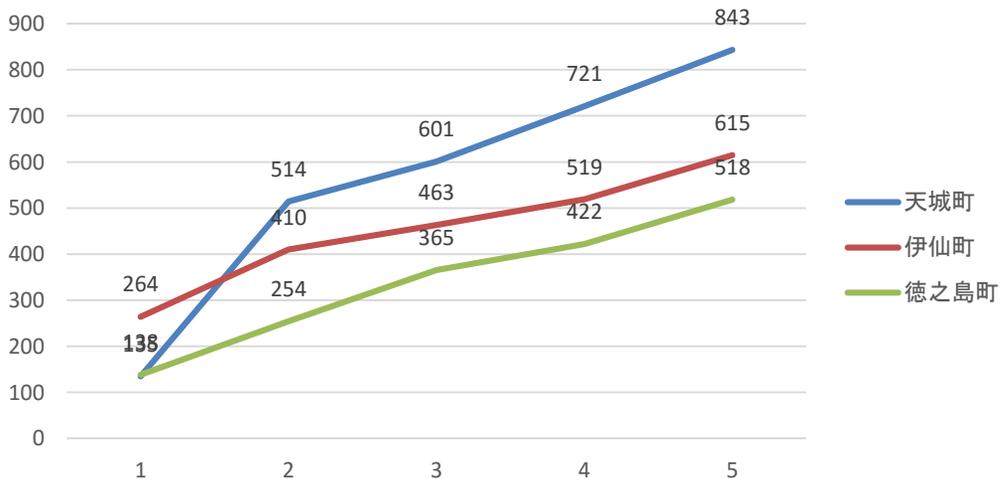
徳之島ごとさくらねこTNRプロジェクト手術数
累計



飼い猫ノラ猫TNR数 累計



町別TNR数累計





【徳之島】公益財団法人「徳之島」と「ちきくら」が「徳之島とつづぶつ基金」(佐上邦久理事長)が徳之島3町共催で2014年11月に開始した猫の無料不妊・去勢手術事業「第5回TNRプロジェクト」の第5回活動が、5日から天城町農業センター(瀬滝)で行われている。過去4回ま

と基金と
3町
つづぶつ
徳之島
どうぶ
徳

「次年度以降の継続重要」

第5回TNR事業スタート

「徳之島」公益財団法人「徳之島」と「ちきくら」での無料手術数は飼育猫・野良猫で計166匹。佐上理事長は「成果が出ている。次年度以降の継続が重要」と強調した。手術活動は8日まで。行政など関係機関・団体の協力で捕獲した野良猫をはじめ希望する飼い猫を対象に、無料で不妊去勢手術を行い「さくら耳」(無痛V字)カットを施して戻す同基金のTNR事業。猫の産み過ぎを防止する。天城町会場で始まった「つづぶつ基金」と徳之島3町共催の第4回TNR事業は6日、同町農業センター(瀬滝)

「殺処分ゼロ」を目指す動物愛護の人道的手段に位置づけ、寄付金を募り2008年から全国的に活動している。世界自然遺産登録候補エリアの一つ徳之島での取り組みは、山林地域へ侵入して野生化したアマミノクロウサギなどの希少野生動物の捕食・滅失被害を防ぐ点でも内外から注目されている。同基金の佐上理事長によると、同島における昨年11月以降のTNR実施数は▽第1回537匹▽2回(15年1月)641匹▽3回(同4月)251匹▽4回(同6月)233匹の計1662匹(うち「さくら耳」カットのみ20匹)。ちなみに同島3町に無償提供してきた不妊去勢手術・ワクチン接種・レボリューション(ノミ、ダニ駆除)を一般的な獣医療費に換算すると「約544.8万円」相当になる。第5回活動には委託獣医師3人と基金スタッフ3人が来島。3町の協力を得ての見込み数は250匹。計画は今年度内(来年1月の第6回)までの予定だが、佐上理事長は「島内に『さくら猫』が増え(無手術の)野良猫の捕獲が困難になってきた。子猫(3カ月未満程度)の捕獲も初めてゼロ。成果が出ている。だが、二部でも残すと再び増えることになる。次年度以降も継続することが重要」と強調した。

第5回活動には委託獣医師3人と基金スタッフ3人が来島。3町の協力を得ての見込み数は250匹。計画は今年度内(来年1月の第6回)までの予定だが、佐上理事長は「島内に『さくら猫』が増え(無手術の)野良猫の捕獲が困難になってきた。子猫(3カ月未満程度)の捕獲も初めてゼロ。成果が出ている。だが、二部でも残すと再び増えることになる。次年度以降も継続することが重要」と強調した。

奄美新聞
AMAMI-SHIMBUN

©奄美新聞社
1959年(昭和34年)8月5日第三種郵便物認可

11月7日 土曜日
旧暦9月26日 2015年(平成27年)
日刊/第19005号

猫の不妊手術、天城町で

8日まで、250匹予定

【徳之島総局】徳之島3町が公益財団法人どうぶつ基金(兵庫県、佐上邦久理事長)と共に、同日進める猫の不妊手術事業が5日から、天城町農業センターで行

不妊手術のため住民らが持ち込んだ飼い猫や捕獲された野良猫―6日、天城町



われている。8日までの4日間、各町が集落などで捕獲した野良猫と、住民の飼い猫25

0匹の手術を予定している。事業は同島に生息するアマミノクロウサギ

など希少な生き物が野生化した猫(ノネコ)に襲われる被害の防止につなげようと、島内の猫3千匹の手術を目標に2014年11月に始まり5回目。これまでに野良猫と飼い猫合わせて1662匹に不妊手術を行った。次回は来年1月の実施を予定している。

手術費用は同基金の負担で無料。野良猫は手術後、手術済みと分かるように耳の一部に切り込みを入れて元の場所に戻す。

同基金によると、前回までは手術できない生後3カ月未満の子猫も多く捕獲されていたが、今回は各町が6日

までに捕獲した野良猫の中に子猫はいない。事業の進捗とともに、捕獲される猫の数も減

っているという。佐上理事長は「事業の成果が出てきている。来年度以降も事業

を継続して、島の最後の1匹まで手術したい」と述べた。

2015年(平成27年)
11月7日(土)
 旧暦9月26日・仏滅
 発行所
 日本新聞協会加盟
南海日日新聞社
 〒894-8601
 鹿児島県奄美市名瀬長浜町10番3号
 電話 0997局
 総合・総務局
 53-2121 ファクス 52-2354
 編集局
 53-2127 ファクス 53-6636
 Eメール nankainnibo.synapse.ne.jp
 営業局
 53-2126 ファクス 53-6431
 Eメール nankai@bronze.ocn.ne.jp
 販売部
 53-2125 ファクス 53-1475
 http://www.nankainn.com/
 ©南海日日新聞社 2015年



クロウサギ保護 猫適正飼育にも貢献

TNR事業



徳之島3町長の感謝状を手に入れた佐上理事長と第6回TNR参加の獣医たち。9日、天城町役場

徳之島 3町長 どうぶつ基金に感謝状

【徳之島】徳之島3町長は9日、昨年11月から猫の無料不妊・去勢手術事業「徳之島(とさくらね)TNRプロジェクト」(3町共催)を続けている公益財団法人「どうぶつ基金」佐上邦久理事長に感謝状を贈った。当初計画では来年1月第6回(一斉TNR)までの予定だが、佐上理事長は「世界初の壮大な社会的実験。成功させるには来年度以降も継続が必要」と理解を求めた。

TNR事業は行政などを対象に、無料で不妊・去勢手術を行い、繁殖の手段のひとつ。世界的に野良猫を減らすための重要な手段のひとつ。世界自然遺産登録候補地の一つ徳之島での取り組みは、山林地域に侵入して野生化(フネコ化)し、アミメノクロウサギなどの希少野生動物の捕食・滅失被害を防ぐ観点からも注目されている。

感謝状贈呈式は天城町役場であった。3町長を代表して大久天城町長が「世界自然遺産登録に向けた徳之島地域の現状を理解し、TNR事業でクロウサギほか希少動物の保護と、猫の適正飼育に多大の貢献をした」との感謝状を佐上理事長に手渡した。同理事長は「すく・やる・続ける」ことが大事で、一つでも怠ると失敗する。今までは(猫も)殺

城町843匹、伊仙町625匹、徳之島町518匹。手術のほかに血液検査やワクチン接種、ノミ・ダニ駆除などを換算すると「約647万7千円(8日現在)の獣医費を3町に無償提供したことになる」とい

同基金によると昨年11月の第1回事業実施以降、今月の第6回(今月5、9日)までの手術匹数は計1976匹(飼い猫481匹、野良猫1495匹)。町別の内訳は天

処分が一般的だった。世界初の壮大な後手も手を抜かず続ける求めた。が、成功したところは社会的実験であり、今(こ)ことが大事と理解を

新聞

【第3種郵便物認可】



【徳之島総局】徳之島3町は9日、同島で猫の不妊手術事業を共に展開している公益財団法人どうぶつ基金（兵庫県、佐上邦久理事長）に感謝状を贈った。天城町役場で贈呈式があり、大久幸助町長が佐上理事長に賞状を手渡した。

猫の不妊手術での貢献評価

どうぶつ基金に感謝状

徳之島3町

事業は同島に生息する希少な生き物が野生化した猫（ノネコ）に襲われる被害の防止につなげようと、2014年度にスタート。15年度末までに飼い猫と捕獲した野良猫合わせて3千匹の手術が目標。これまでに5回、3町で計1976匹の不妊手術を実施した。贈呈式で大久町長は大久町長（右）から感謝状を受け取るどうぶつ基金の佐上理事長ら11日、天城町

「世界自然遺産登録が目前に迫る中、ノネコ

がクロウサギを捕食する被害が心配されている。基金の協力で大変効果が出てきた」と感謝の言葉を述べた。佐上理事長は「道半ばでやめると野良猫の多い元の徳之島に戻る。16年度以降も解決に向けて継続して取り組みたい」と話した。

2015年(平成27年)

11月11日(水)

旧暦9月30日・友引

発行所

日本新聞協会加盟

南海日日新聞社

〒894-8601

鹿児島県奄美市名瀬長浜町10番3号

電話 0997局

総合・総務局

53-2121 ファクス 52-2354

編集局

53-2127 ファクス 53-6636

Eメール nankainn@po.synaose.ne.jp

営業局

53-2126 ファクス 53-6431

Eメール nankai@bronze.ocn.ne.jp

販売部

53-2125 ファクス 53-1475

http://www.nankainn.com/

©南海日日新聞社 2015年

★
南海日日新聞
 ★

猫の不妊手術事業を展開 どうぶつ基金に感謝状

徳之島3町

3町から感謝状を受ける佐上邦久理事長（左） 天城町役場



徳之島の3町は9日、猫の殺処分ゼロを目指し不妊手術事業を展開している公益社団法人どうぶつ基金（兵庫県）に、感謝状を贈呈した。

事業は野生化した猫によるアマミノクロウシなど希少な生き物の被害防止につなげようと、3町とどうぶつ基金が2014年度から

進めている。15年度末までに3千匹の手術を目標に取り組み、8日までに5回実施し、飼い猫と野良猫合わせて1976匹に不妊手術をした。

贈呈式は天城町役場であり、3町を代表し大久幸助町長が佐上邦久理事長に感謝状を手渡し、「世界自然遺産登録に向けた猫の問題

だが、基金に協力をもたらす、効果が出てきた」と謝意を示した。
佐上理事長は「この事業は『すぐやる、全部やる、継続する』ことが大事。最後まで手を抜かず、関係機関と協力しやっていきたい」と、次年度以降の継続の重要性を強調した。
（宮前延代）

2015(平成27)年

11月12日
木曜日

旧暦10月1日
仏滅

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	1	2	3	4	5

発行所：(郵便番号890-8603)
鹿児島市与次郎1丁目9番33号
南日本新聞社

南日本新聞

増城

さくらねこTNR、徳之島とアマミノクロウサギと猫を救う

徳之島／鹿児島

島内全ての猫推定3,000匹に不妊手術を施す「徳之島ごとさくらねこTNR事業」が現在、奄美群島の徳之島（鹿児島県）で行われている。

公益財団法人どうぶつ基金（兵庫県芦屋市）が、島の天城町、伊仙町、徳之島町と協働で実施。奄美群島が世界自然遺産登録を目指す取り組みの一環で、国の特別

天然記念物アマミノクロウサギも、クロウサギを捕食する猫も殺さず共生する島の実現のために、昨年11月からこれまで約1,800匹のノラ猫・飼猫に不妊手術、ワクチン投与、ノミダニ駆除等を無料で行ってきた。

TNRとはTrap：トラップ＝捕獲、Neuter：ニューター＝不妊手術、Return：リターン＝元の場所に放す

（クロウサギと生息域を共にする猫は元の場所に戻さずRemoval：リムーバル＝引っ越し）の一連の作業で、猫の殺処分ゼロ実現に最適な手法とされている。「さくらねこ」とは不妊手術の印として、麻酔中に猫の耳先を桜の花びら形にカットすることで、この2つの組み合わせが、同法人の目指す「殺処分することなく人と犬や猫が幸せに共生

する社会」へのメッセージとする。同法人の佐上邦久理事長は「徳之島では毎年、猫に殺されたと推測されるクロウサギが十数匹発見されてきたが今年はずか2、3匹まで激減した。今回のさくらねこTNRの成功は今後、世界で起きている猫による希少種絶滅回避のグローバルスタンダードになるだろう」と話す。



さくらねこ無料不妊手術事業 第5回徳之島ごとさくらねこTNRプロジェクト



公益財団法人どうぶつ基金

天城町
伊仙町
徳之島町

NPO法人徳之島虹の会
徳之島ねこ部
徳之島自然保護推進協議会